

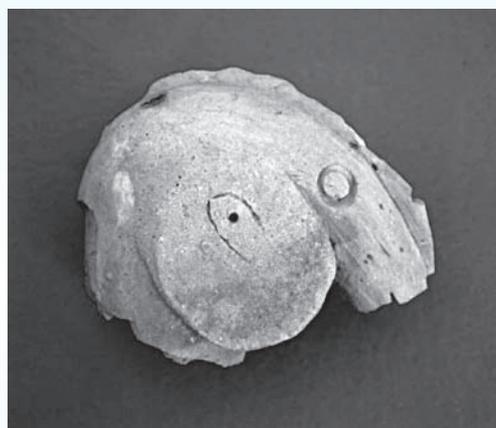
テーマ展示のご案内 その一

市役所南庁舎2階ロビーで伊賀市内の遺跡から出土した考古資料を市民の皆さんに身近に見ていただくため、4つのテーマを決め展示しました。

テーマ①『文字の考古学』では、森脇遺跡(市部)出土の遺物を中心に古代から中世の墨書土器、刻書土器、木簡を展示しています。木簡には、税に関する文字が書かれ、土器には「安」や「吉」、「富貴」のように縁起の良いもの(吉祥文字と呼ばれます)が多く見られます。



▲墨書「富貴」のある須恵器蓋(森脇遺跡)



▲鳥の頭部(御墓山窯跡)

テーマ②『さまざまな焼き物の創造』では、御墓山窯跡(佐那具)出土の遺物を展示しています。

この窯跡は、飛鳥時代から奈良時代にかけて須恵器を焼いていた窯で、多彩な遺物が出土しています。日常で使われる杯などの小型品が大半を占めますが、一方で仏教信仰や葬送儀礼に関する大型品を生産しているところに特徴があります。宮殿形陶製品(県指定文化財)や陶棺はその代表といえます。また、土馬や土鈴、鳥の頭部をかたどったものなど非日用的なものも出土しています。市役所にお立ち寄りの際には、ぜひ、ご覧ください。

教育委員会生涯学習課 ☎ 22・9681

新長野トンネル開通!

伊賀と伊勢を結ぶ伊賀街道をほぼ踏襲している国道163号の長野トンネル付近は冬季の凍結、悪天候時の視界不良、トンネルの高さや幅の不足で交通の難所となっていました。この峠は、ここに降る雨を西の大阪湾、東の伊勢湾へと分ける分水嶺で、東西の文化の出入口ともなる重要な場所になっていました。

藤堂高虎が整備し、芭蕉をはじめ多くの文人墨客が往来したこの街道に3本目の「新長野トンネル」が開通し、伊賀市の中心部と県都津市を結ぶ最短の道がさらに近くなりました。

平成17年3月に着工し、平成

19年2月に貫通、平成20年7月12日待望の開通となりました。

開通式で今岡市長は「関係者の皆さんの並々ならぬご努力によって新長野トンネルが完成し、海のある津市と山が多い伊賀市がより近くなった。今後さらに交流を深め両市の絆を作っていきたい」とお礼の言葉を述べました。

新トンネルは、三重県で2番目の長さ(1,966m)で、以前よりも幅(7m)が広くなり大型車も対向できるようになり、今までの長野トンネルは今後も通行可能ですが、新長野トンネルの開通によって、より安全に峠越ができるようになりました。



市の花
ササユリ



市の木
アカマツ



市の鳥
キジ

平成20年8月1日 発行/伊賀市 編集/企画振興部広聴広報課
〒518-8501 伊賀市上野丸之内1-16番地
TEL 22・9696 FAX 22・9617
http://www.city.iga.lg.jp/